

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要			
建物名称	久岐通商(株)ひびき物流センター	BEE	0.9 BEEランク B- ★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	0.0 /5		がんばろう
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	- /5		よい
* 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.2	
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮		
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 2.3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 4.3
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均	
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮		
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア	LR2/ 1.1 節水	スコア
<自由記述>		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.6	
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮		
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均	
バリアフリーに関する配慮	主な指標		
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級	0
<自由記述>		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅: BEI値、住宅: -	0.25
		外構緑化指数	0 %
		建物緑化指数	0 %

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	久岐通商(株)ひびき物流センター	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市若松区響町3丁目1	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	5人
地域区分	6地域	年間使用時間	12,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年8月25日
敷地面積	18,000㎡	作成者	甲斐 邦三
建築面積	4,439㎡	確認日	2021年8月26日
延床面積	4,320㎡	確認者	甲斐 邦三

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	営業倉庫として、お客様の荷物を保管し、搬入・搬出作業がスムーズにできるように出入口を配置して、大型トレーラーなどが駐車できるようにしています。倉庫内クレーン2台設置をし、重量物も受け入れ可能です。	その他
Q1 室内環境	保管物の搬入・搬出作業の時は、開口部を開けて作業をします。燃焼機器設置はないので、室内の大気汚染はありません。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	屋内照明をLED照明を使用し、省エネ仕様としています。	LR3 敷地外環境
Q2 サービス性能	建物内は禁煙で、喫煙場所は敷地内に部分確保しています。	その他
LR2 資源・マテリアル	不燃材を使用した建物で、部分的に修理ができるようになっています。	その他

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
久岐通商(株)ひびき物流センター

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.5
Q1 室内環境					0.30				2.3
1 音環境				1.8	0.15	-	-		1.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				1.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	3.0	-		
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				1.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				1.0	0.35	-	-		1.0
2.1 室温制御				1.0	1.00	-	-		
1 室温				-	-	3.0	-		
2 外皮性能				1.0	1.00	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				-	-	3.0	-		
2.3 空調方式				-	-	3.0	-		
3 光・視環境				1.8	0.25	-	-		1.8
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-		
1 昼光率				1.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				1.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				2.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				5.0	0.25	-	-		5.0
4.1 発生源対策				-	-	-	-		
1 化学汚染物質				-	-	3.0	-		
4.2 換気				-	-	-	-		
1 換気量				-	-	3.0	-		
2 自然換気性能				-	-	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0	-		
4.3 運用管理				5.0	1.00	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		建物全体は、禁煙です。		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.2
1 機能性				3.0	0.40	-	-		3.0
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画				-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-		
1 広さ感・景観				-	-	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				-	-	-	-		
1.3 維持管理				3.0	1.00	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	1.00	-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.4	0.30	-	-		2.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.3	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.22	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.22	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.11	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	0.22	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.22	-	-		
2.4 信頼性				1.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				1.0	0.33	-	-		
2 給排水・衛生設備				-	-	-	-		
3 電気設備				1.0	0.33	-	-		
4 機械・配管支持方法				1.0	0.33	-	-		
5 通信・情報設備				-	-	-	-		

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	軒高11.683m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 = (120+25)x2/3000=0.0966	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	3.0	-	
倉庫業の倉庫ため、床荷重3,900N/m ² 以上							
3.3 設備の更新性			4.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		-	-	-	-	
2	給排水管の更新性		-	-	-	-	
3	電気配線の更新性	構造体を痛めることなく更新・修復ができる	5.0	0.20	-	-	
4	通信配線の更新性		-	-	-	-	
5	設備機器の更新性	構造体を痛めることなく更新・修復ができる	5.0	0.40	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.40	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.25 照明:倉庫2.25w/m ² 屋外駐車場0.19w/m ²	5.0	0.71	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.29	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.14	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.29	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.29	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨造で外装板・内装板ともビス止で、取外しが容易です。	5.0	0.29	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	1.00	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	
2 地域環境への配慮			3.1	0.50	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
燃焼機器を使用していない。							
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐車スペースを確保。	4.0	0.50	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.50	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.50	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	